

ライフケアパートナーズ 10 周年セミナー 開催報告 「高まる企業の介護リスク ～急がれる従業員の両立準備～」

当社は、企業の介護リスクという課題に対し、従業員の準備状況に焦点を当て、セミナーを開催いたしました。当セミナーには、企業の人事担当者などおよそ150名の方々にご来場いただきました。

当日の様様を以下にご紹介いたします。

【開催概要】

- 日時 平成 23 年 12 月 15 日 14:00～16:00
- 場所 東京ドームホテル B1階「オーロラ」
- 内容 ○講演「高まる企業の介護リスク ～急がれる従業員の両立準備～」
○パネルディスカッション
○介護新サービスのご案内

基調講演は、内閣府の男女共同参画会議専門委員の渥美由喜氏が行いました。渥美氏は、3年前から認知症となった実父への介護経験を通じた仕事と介護の両立の難しさや、介護による離職・転職者が2017年には約100万人まで増加する見込みであることなどをお話しされたうえで、「介護はリスクマネジメント」であり事前の取組みが重要であること、企業の介護リスクの一因に人的リスクがあるが、人的リスクは会社からの情報提供で大きく改善する。制度よりも職場風土が大切と訴えられました。



渥美由喜氏プロフィール

内閣府 男女共同参画会議専門委員

1992年 東京大学 法学部政治学科卒業

1992年 (株)富士総合研究所に入社

2003年 (株)富士通総研に入社

2009年 (株)東レ経営研究所に入社 (現在に至る)

(写真：渥美由喜氏講演の様子)

続いて、4名のパネリストが当テーマについて様々な角度から講演をされました。ご自身の介護体験を語っていただいたパネリストからは、以前勤めていた大企業は福利厚生制度は充実していたが使える風土でなく、家族の介護が理由で退職を余儀なくされたこと、企業の人事担当を務める2名のパネリストは、それぞれの企業における介護支援制度とその活用のための風土醸成の取組みをご講演いただきました。また、主任ケアマネージャーとして介護に携わっているパネリストからは、介護を受ける側になるという自分の問題としてとらえ、事前にどんな最期をすごしたいかを見つめることが、生き方や働き方の見直しにつながるのお話がありました。



(写真：パネルディスカッションの様子)

最後に、当社より、介護についての事前準備から発生時まで、企業の従業員のみなさまをトータルにサポートしていく「介護トータルサポートサービス」についてご案内し、セミナーを締めくくりました。

多くの来場者から、「介護の実体験に基づく話が印象に残った。」「他社における取組事例が参考になった。」「自分のこととして考えていきたい。」等、多角的にこの問題を把握できたとのこと意見をいただきました。

【ご参考】来場者アンケートの御紹介

- ・「制度・仕組み」作りだけで終わらずに「風土」作りをすることの重要性を実感した。
- ・介護が発生した際のBCPを常に用意しておくことが必要だと確信した。
- ・「介護」前の施策が大切であり、これが不足していることが分かった。
- ・企業側が、社員の働き続けたいと思う気持ちを大切にする必要があったと思った。
- ・助け合いの風土の醸成が必要、少しずつ取り組まなくてはいけない。